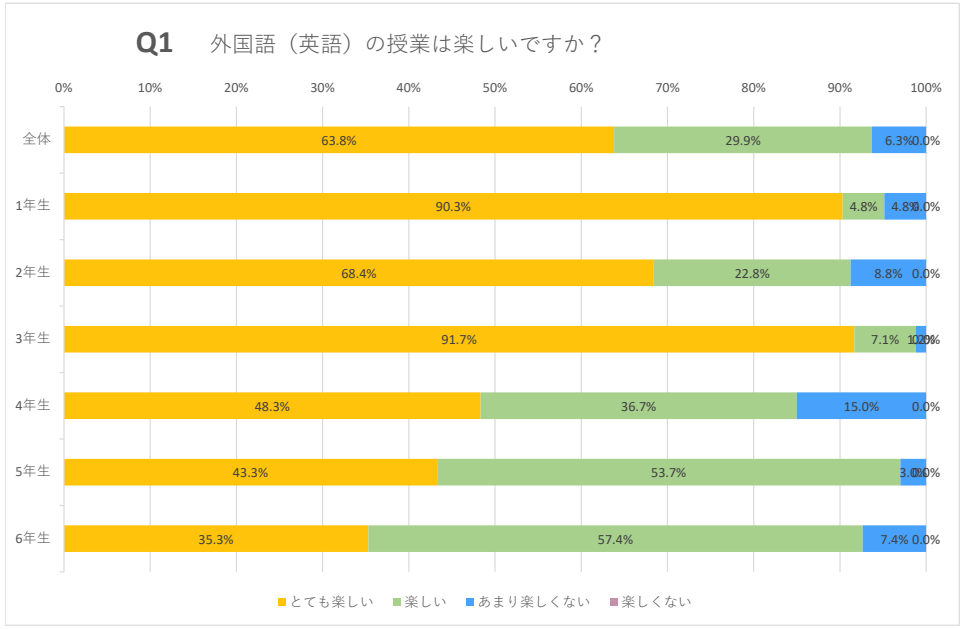
外国語（英語）の授業に関する児童用アンケート調査結果

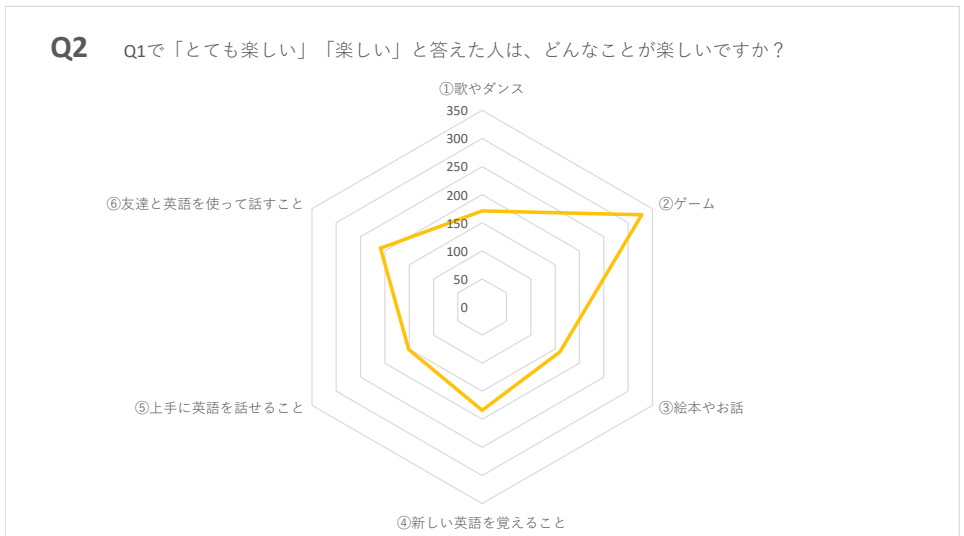


Q1集計について

約93%の児童が外国語（英語）の授業が楽しいと答えている。しかし、学年が上がるに従い「とても楽しい」の割合が少なくなっている。

その理由として、高学年になりアルファベットを書いたり、英単語を読んだり書き写したりする活動が入ってきたことで苦手意識が出てきたこと、更には、単語やフレーズを覚えなくてはいけないという思いもあることが理由として考えられる。

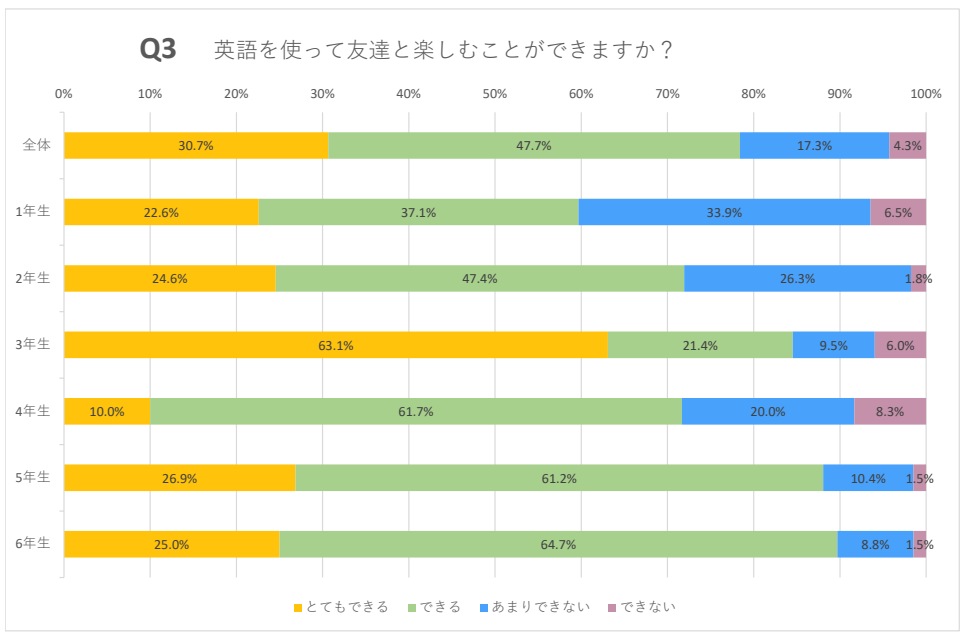
今後は、中学校への繋ぎを視野に入れながら、苦手意識をもたせないような手立てを工夫していきたい。



Q2集計について

「とても楽しい」「楽しい」と感じている活動は、どの学年も「ゲーム」が最も多い。低学年は、「歌やダンス」「絵本やお話」が楽しいと感じているが、高学年になるほどその割合は低くなっている。それは、学習内容が低学年と高学年では異なり、高学年では、友達と英語を使ってコミュニケーションをとる活動を多く取り入れるため、歌やダンス、絵本等の活動の時間が少なくなっていることが考えられる。

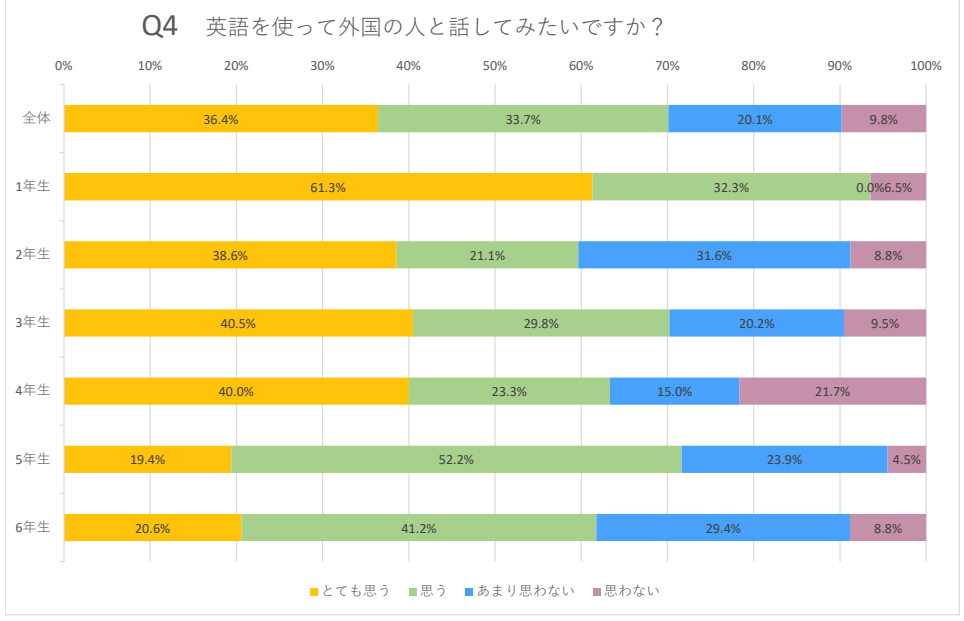
ゲーム的要素は、今後も学習の中に取り入れながら、各学年の発達段階に応じた活動を工夫していく。



Q3集計について

全体的に見ると、8割近くの児童が楽しむことができると答えている。学年別に見ると、学年が上がるごとに「あまりできない」「できない」と答える割合は少なくなっている。高学年になるほど、使える英語が増えてきているため、友達となら英語を使って楽しむことができると感じていると考えられる。

授業の中では、英語を使って友達と楽しんでいる様子をその都度評価したり、普段の生活では、クラスルームイングリッシュを意識して使用したりして使うことができるという自信をもてる工夫をしていく。



Q4集計について

約７０％の児童は、外国の人と英語を使って話してみたいと思っているが、約30%の児童は、「そうは思わない」と答えている。

普段の生活の中で、外国の人とふれあう機会がほとんどなく、外国の人と自分が会話をしているイメージがつかめない児童も少なくないと考えられる。

また、実際の授業の中でのＡＬＴとのやりとりを見ても、聞いてみたいことや話したいことはたくさんあるのだが、どう言ってよいのか分からず、どうせ話しても伝わらないと尻込みしてしまう児童が多いように感じる。

上手に話すことだけではなく、知っている単語を使い、伝えようとすることで相手に伝わることもたくさんあることをＡＬＴ等の外国の人との会話を通じて経験させていきたい。

○保護者・学校関係者より

・英会話の授業参観では、学年にあった授業が行われており､子どもたちも楽しそうで良かった。
・英語の授業があるときは、いつも以上に楽しみに登校している。
・ＡＬＴとコミュニケーションをとることを楽しみにしているようだ。